

平成29年度 病害虫防除技術情報 第2号

平成29年5月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ナシ黒星病の防除対策について

ナシ黒星病は、生育初期に低温で雨が多いと発病が多くなることから、この時期の防除が重要である。本年は3月以降低温・多雨傾向であり生育が平年に比べ7～10日間程度遅れているため、天候に応じた防除に努めるとともに、薬剤のかけムラがないよう散布方法にも注意する。

1. 発生状況

4月中旬の巡回調査では、発生圃場率、芽基部病斑率は平年より高かった。

発生圃場率 : 22.2% (平年6.7%、前年11.1%)

芽基部病斑率 : 0.9% (平年0.2%、前年0.1%)

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 降雨前の予防散布を徹底し、散布間隔があき過ぎないように注意する。
- (2) 芽基部病斑、罹病葉(果)は見つけ次第切除し、園外へ持ち出し処分する。
- (3) DMI剤は年3回までの使用とする。
- (4) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)